資料9－3

【参考】

現在の教育振興基本計画（R2～）

主な成果

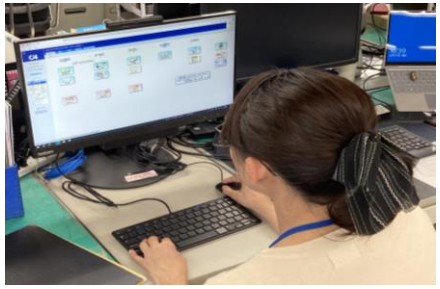
学校教育DXの推進

デジタル技術の積極的な導入を推進し、子どもの学びの変革、教職員の業務効率化を推進

タブレットを活用した協働学習

全国に先駆けて一人一台のタブレット端末を整備（R2、3）

子どもたちが授業内外で自ら調べたり、話し合いながら協働するなど「子どもたちが楽しく主体的に考える学びの進化」の基盤を形成するとともに、**学習支援アプリやデジタル教科書等の活用**を推進



校務支援システムを活用

欠席連絡等をweb上で行える**校務支援システム**や
採点作業を自動化しデータ化する**デジタル採点システムの導入**
等により**校務のDX化を推進**

・県の校務支援システム導入（13市町）
・デジタル採点システム導入（全県立高校、中学校26校）

円滑な活用や普及促進に向けて、
GIGAスクールサポートセンターを設置（R3～）し、専門家支援を行うとともに、
県の目指すべき方向性や施策をまとめた**福井県学校教育DX推進計画を策定**（R4）

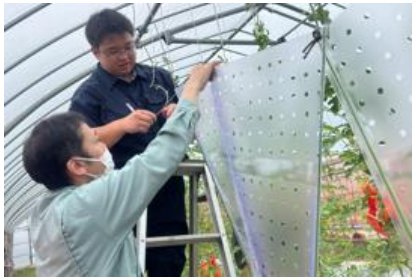
主体性や知的好奇心を核として、日常生活や社会に目を向け、自ら課題を発見・解決する力を育成

地域のごみ問題を大人と議論（小学校）

地域の人々や企業等と協働して地域課題の解決に取り組んだり、**自らの興味関心事への学びを深める探究学習を推進**

体験学習を支援する**「地域コーディネーター」**の配置、出張講座や研究に協力してもらえる**「ふくい探究学習サポート企業」**の募集（R5～）等を実施し、学校の取組みを促進

・地域コーディネーター　全ての小中学校に配置
・ふくい探究学習サポート企業　29社・団体


企業と連携した研究（高校）

全国高校生プレゼン甲子園決勝大会

県と一般社団法人プレゼンテーション協会が連携協定を結び、**全国高校生プレゼン甲子園を開催**（R3～）

互いにプレゼンを競い合い、これからの社会に必要な発信力等を育成
（R6は全国から755チームが参加する大規模イベントに成長）

福井の先人や歴史、自然、文化等を学び、地域の魅力に気づき、ふるさと福井への誇りと愛着を育成

「ふるさと福井の魅力ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ大会」
発表の様子

地域に関わる体験・探究活動等を通じて気付いたふるさとの良さを発信する

「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」（R2～）や
「ふるさと福井CMコンテスト」（R3～）**を開催**

【R5参加実績】
- ふるさと福井の魅力ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ大会　小学校8チーム、中学校8チーム
- ふるさと福井CMコンテスト　小学校84作品、中学校41作品、高校267作品

「ふるさと福井CMコンテスト」受賞作品

福井ふるさと教育フェスタでの成果発表

県内小中学生が一堂に会し、ふるさと学習や伝統芸能活動の成果を発表したり、素晴らしい実践や発信をしている子どもたちを表彰・紹介する

「福井ふるさと教育フェスタ」を開催（R1～）

【R5参加実績】
- 648名（ステージ・プレゼン発表 小学生174名、中学生21名 等）

福井の優れた企業や産業を学ぶ機会をつくるとともに、企業との連携や資格取得を促進し、地域で活躍する人材を育成

「ふくいの産業」の様子

県内すべての職業系高校がオンライン一斉講義により、地域の産業や企業を学ぶ
本県独自の共通科目「ふくいの産業」を実施（R3～）
・46の企業・団体が講座（R5）

地元企業との取り組み

県内高校2校が文部科学省**マイスター・ハイスクール事業の指定**（R3～）を受け、地域産業を担う人材育成や先端技術の開発強化に向けた「坂井高校コンソーシアム」を創設、企業と連携した課題研究を強化

R6以降は、既存の2校を拠点校として県下全ての職業系高校に取組みを普及

全国高校生ビジネスアイデアコンテスト

職業系高校の生徒による**「全国産業教育フェア福井大会」を開催**（「全国高校生ビジネスアイデアコンテスト」同時開催（R5））し、延べ25,000人超が参加

このほか、高校生の技能系資格取得等を支援する**「福井フューチャーマイスター制度」**を実施
・認定件数　6，118人（R2～5）※対象生徒の約83.6%

いつでも子どものSOSに気づける相談体制の充実、子どもが安心して学ぶことができる環境づくりを推進

カウンセラーによる相談対応の様子

スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置を充実させ、専門家の視点から子どもの相談に応じられる体制を整備

【R5配置実績】

・スクールカウンセラー　約100人（全ての公立小中学校、県立学校をカバー）

・スクールソーシャルワーカー　約30人

校内サポートルーム

不登校傾向にある児童生徒に対し、校内に**教室とは別の居場所づくり**と、自己実現及び児童生徒が抱える課題や多様なニーズへの支援を目的として**「校内サポートルーム」**（R4～）を設置

・配置校 小学校25校、中学校25校（R6）

中高生に配付している周知カード

SNSを通じた相談窓口を開設（R2～、夏季休業明け前後および土日祝日の17時から21時）するとともに、教育総合研究所の「24時間電話相談」の周知徹底等を図り、**学校時間外での教育相談体制を充実**

多様なキャリアを応援できる学びの特色化を図るとともに、施設の安全性・利便性の向上を推進

県立高校PRチラシ

子どもの興味関心に応じた学びができる**新しい学科・コースを創設**(R4)

足羽高校	普通科キャリアデザインコース、多文化共生科
武生東高校	学際フロンティア学科
勝山高校	探究特進科
若狭東高校	ビジネス情報科　　等、9校9学科3コースを創設

大学教授から実験の助言を受ける様子

県内高校4校が**SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定**を受け、理数情報系の教育を充実、科学者・技術者を目指す才能ある人材の発掘・育成を推進。
また、9校が**DXハイスクールの採択**(R6)を受け、ICTを活用した文理横断的で探究的な学びを強化し、デジタル等成長分野を支える人材を育成

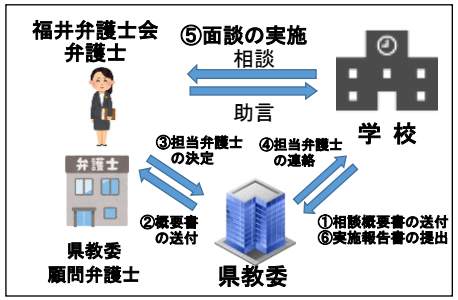
地域みらい留学2期生　市長表敬訪問

県立高校2校で**地域みらい留学による全国募集**を実施(R5～)するとともに、合わせて**新たな寮を整備**。県外生徒と県内生徒との協働、地域イベントへの参加等により高校と地域の活性化を推進

・留学者数　2校19人

このほか、老朽化した施設の**リフレッシュ工事**や、**トイレ洋式化**、**バリアフリー化**等を推進

DXによる業務改善に加え、外部人材の活用や業務削減を推進し教職員の負担を軽減



スクールロイヤーの相談体制

学校運営支援員や部活動指導員など、教職員をサポートする外部人材を配置

【R5配置実績】
- ・学校運営支援員　263人
- ・部活動指導員　251人

学校に**スクールロイヤー**を配置(R2～)し、学校現場における様々な問題解決に向けて助言する**法律相談体制を構築**

地域移行した剣道部

持続可能な子どものスポーツ・文化芸術活動の機会確保と、教員の負担軽減を両立するため、中学生の休日部活動の段階的な**「部活動地域移行」**を推進(R4～)

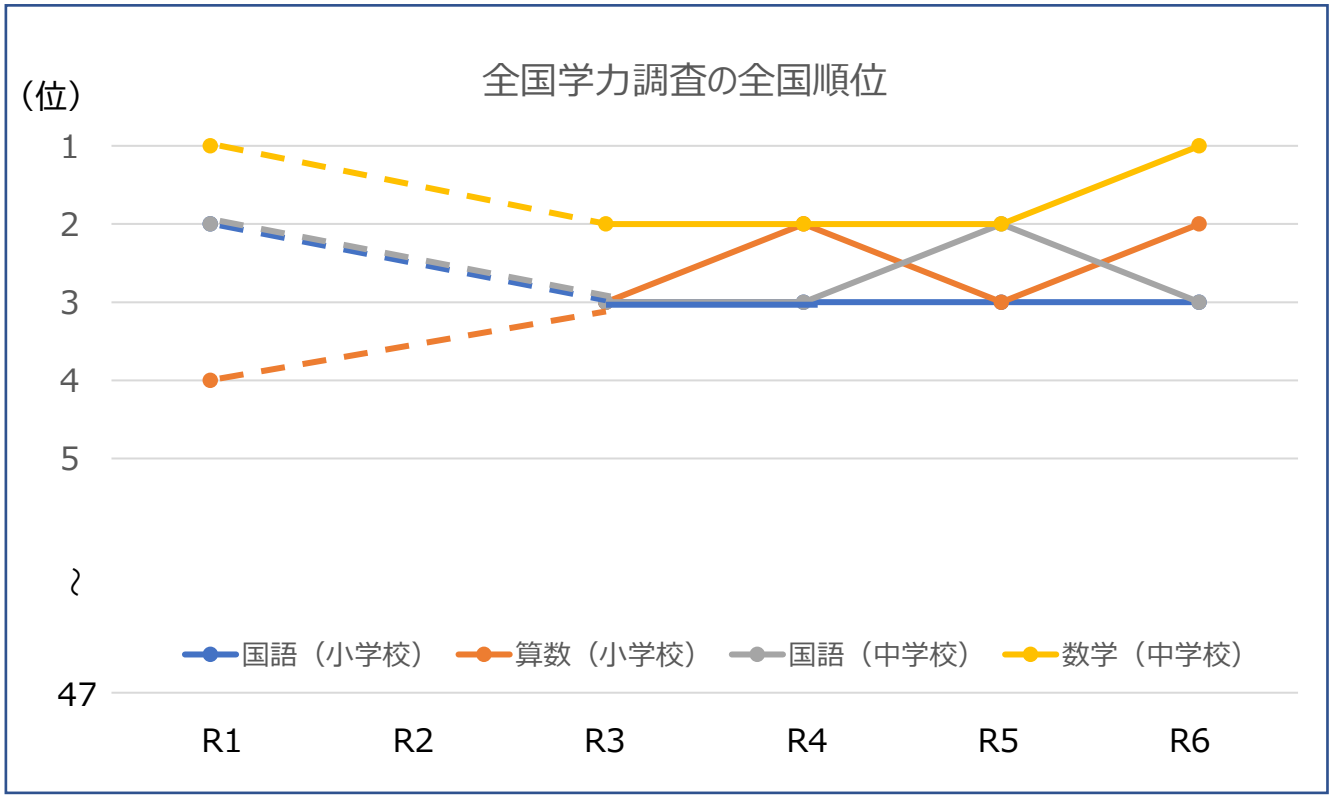
・休日に活動する約770部活動のうち、R5末までに189部活動が地域に移行
（R6末までに約400部活動が移行予定）

研修等を通じた意識改革や、先進事例の横展開、PTAと協力した保護者への理解促進等も推進し、
月80時間以上の超過勤務者数は延べ9,999人から320人に減少
（教員の割合　H30:12% → R5:0.4%）

本県教育と
それを取り巻く環境の現状

学力テスト

学力調査の全国順位は、国語・算数（数学）ともに高水準

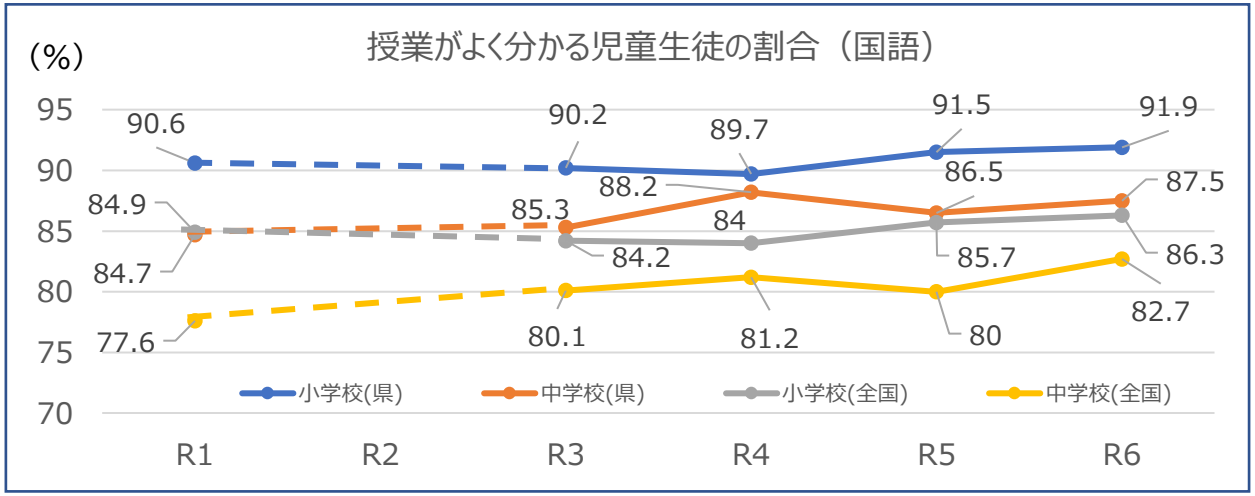


小中学校の
国語・算数とも
計画期間中
常にトップ3以上

【出典】「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）

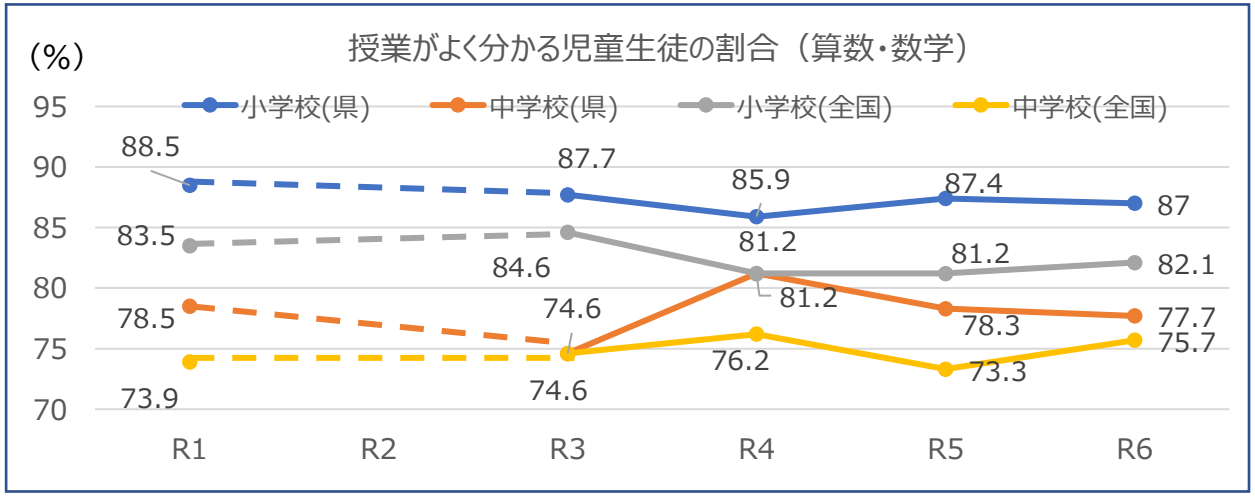
授業の理解

授業が分かる児童生徒の割合は、国語・数学ともに高水準



全国比較(R6)
小学校 +5.6ポイント
中学校 +4.8ポイント

R1→R6(県)
小学校 +1.3ポイント
中学校 +2.8ポイント



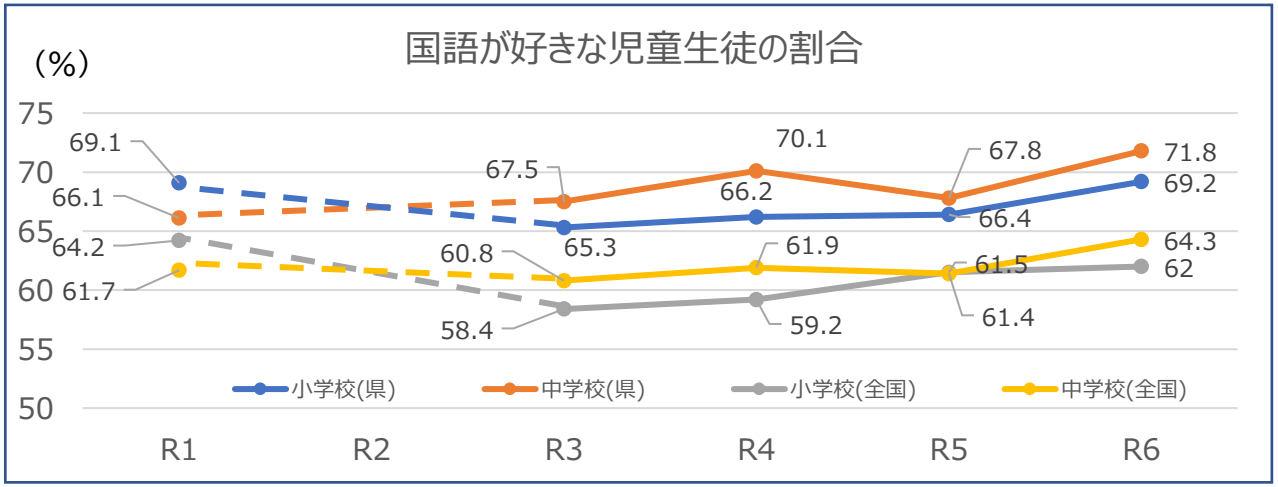
全国比較(R6)
小学校 +4.9ポイント
中学校 +2.0ポイント

R1→R6(県)
小学校 −1.5ポイント
中学校 ほぼ横ばい

【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

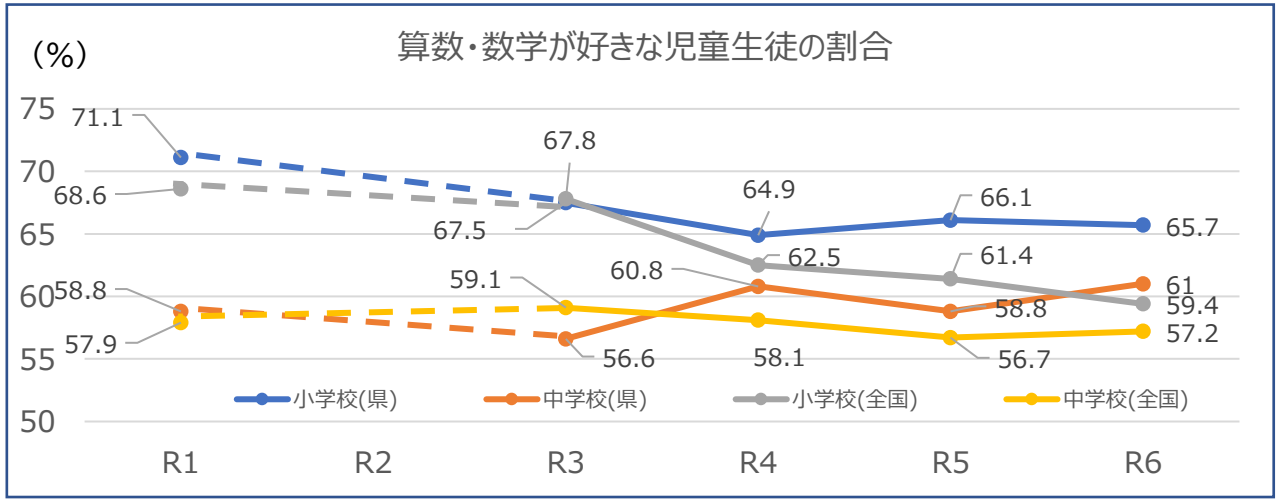
授業への好感

授業が好きな児童生徒の割合は、国語・数学ともに高水準
小学校の算数は全国的に低下



全国比較(R6)
小学校 +7.2ポイント
中学校 +7.5ポイント

R1→R6(県)
小学校 ほぼ横ばい
中学校 +5.7ポイント



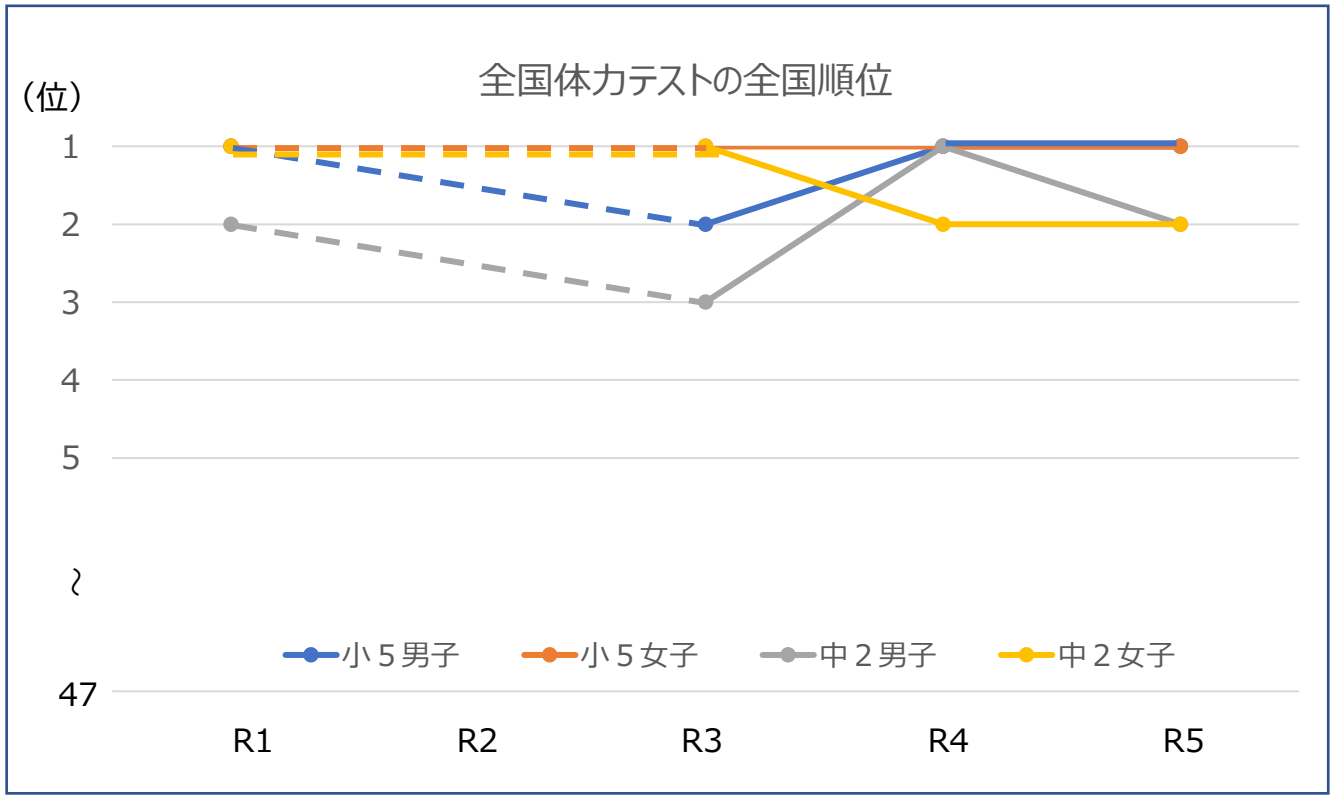
全国比較(R6)
小学校 +6.3ポイント
中学校 +3.8ポイント

R1→R6(県)
小学校 −5.4ポイント
中学校 +2.2ポイント

【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

体力テスト

体力テストの全国順位は、男女ともに高水準

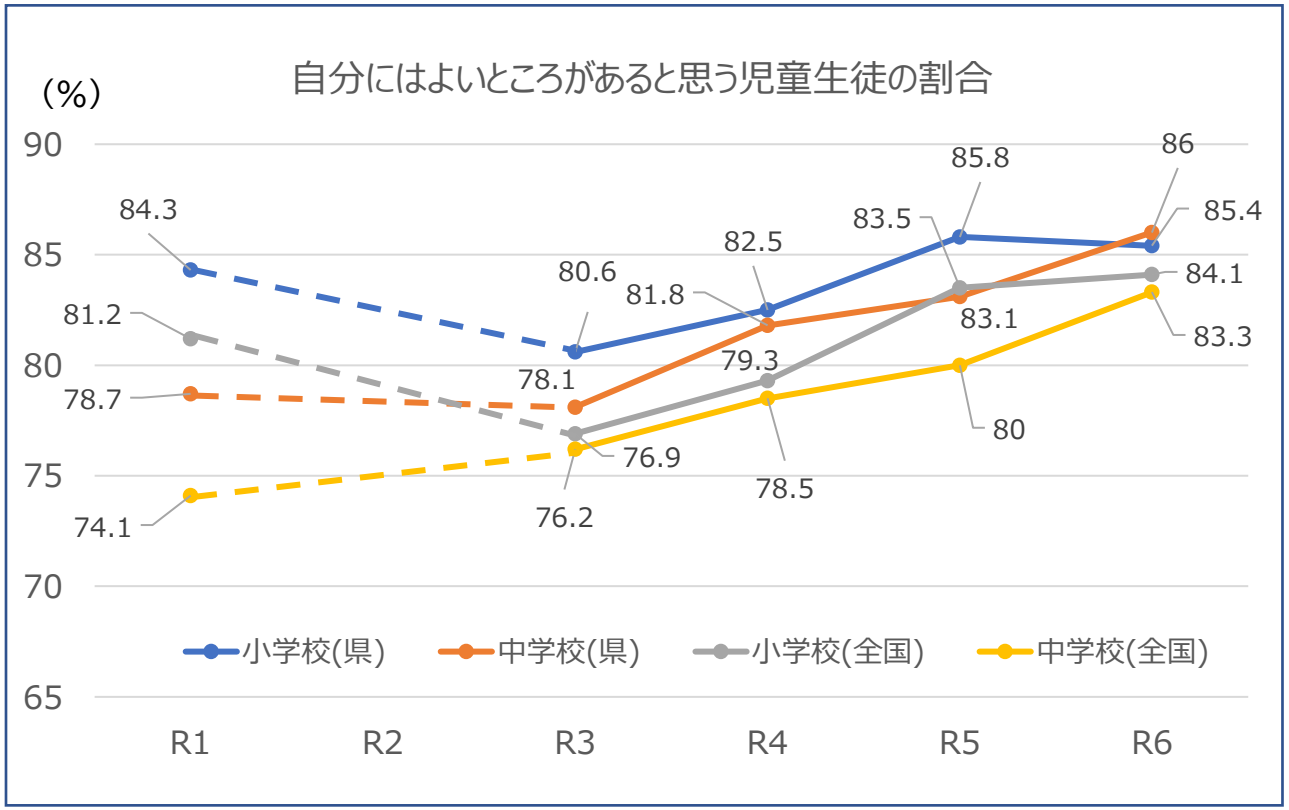


小中学校、男女とも
常にトップ3以上

【出典】「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」（文部科学省）

自己肯定感

自分によいところがあると思う児童生徒の割合は、
R3に特に小学生が低下傾向であったがその後上昇



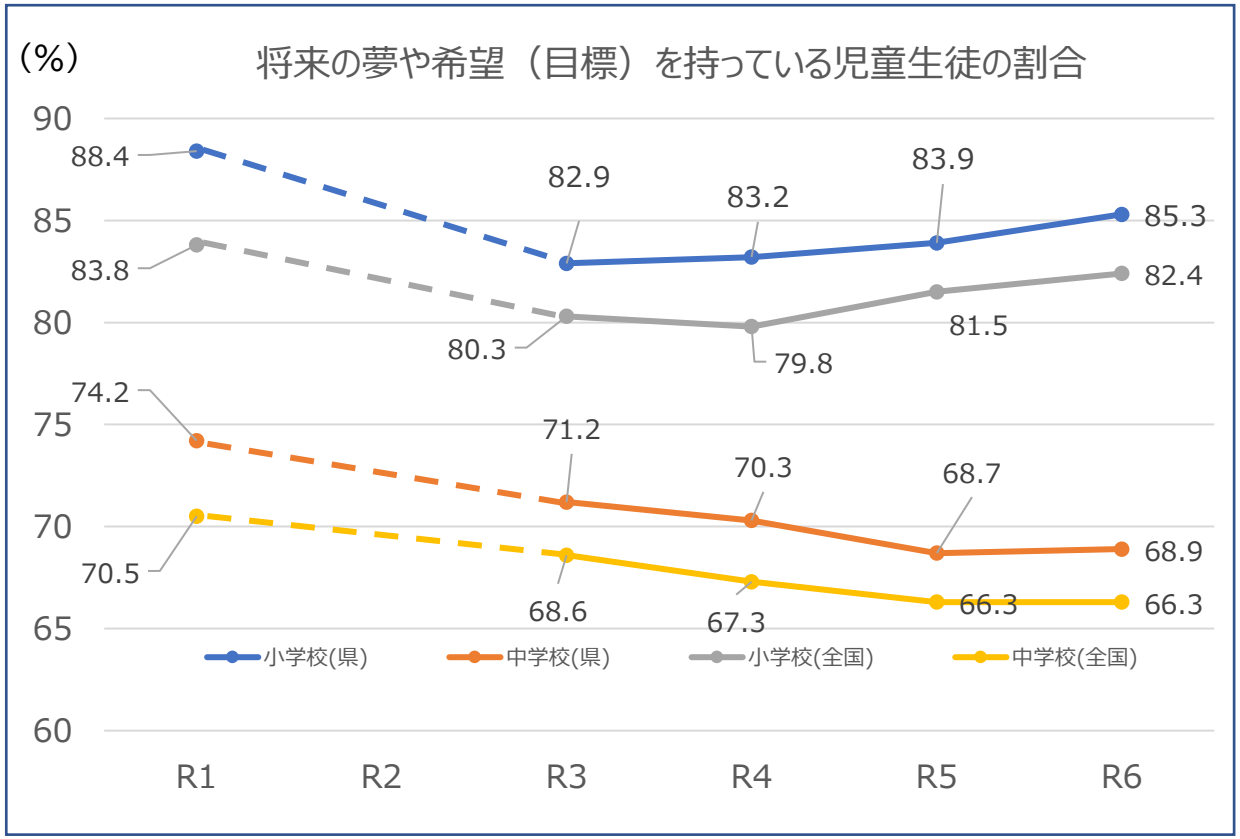
全国比較(R6)
小学校 +1.3ポイント
中学校 +2.7ポイント

R1→R6(県)
小学校 +1.1ポイント
中学校 +7.3ポイント

【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

子どもの夢・希望

将来の夢や希望を持つ児童生徒の割合は全国的に低下
小学校ではR3以降はやや上昇傾向



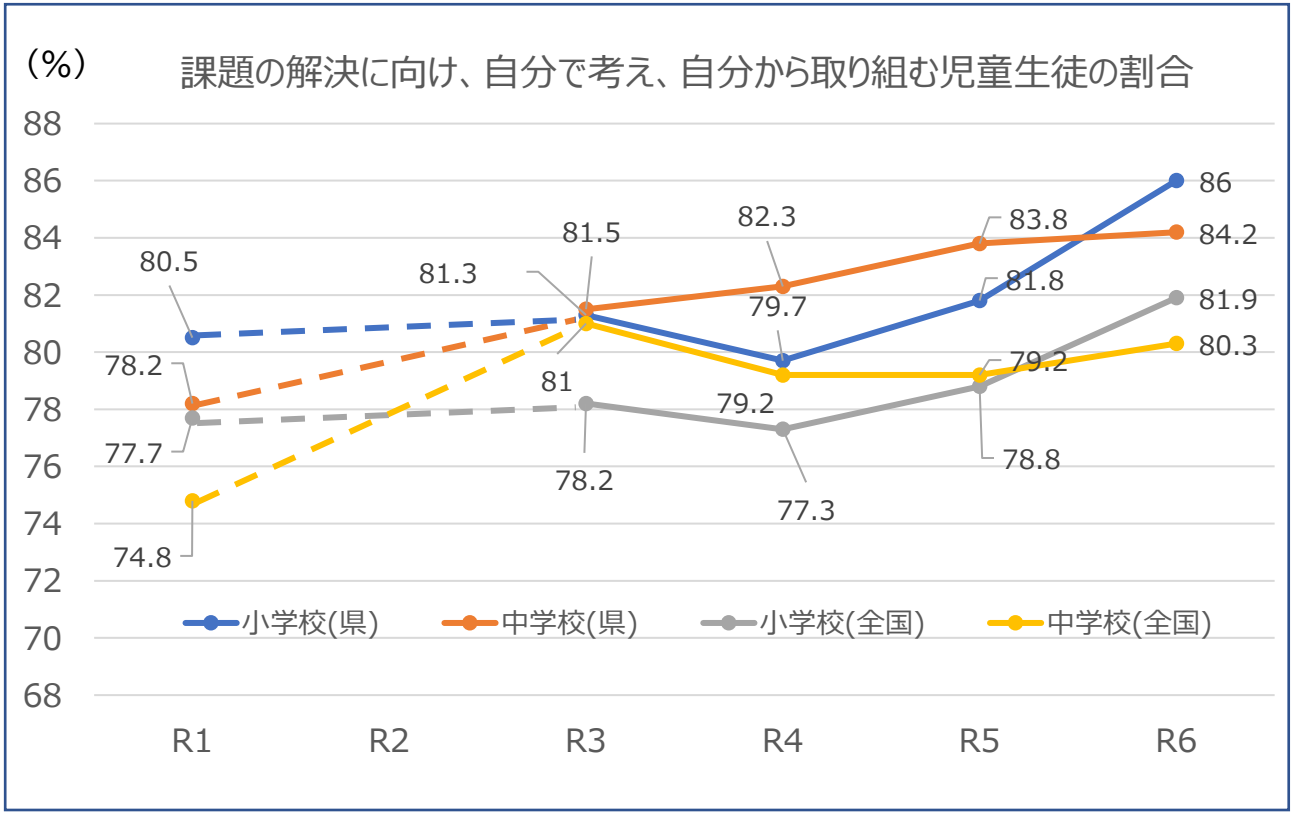
全国比較(R6)
小学校 +2.9ポイント
中学校 +2.6ポイント

R1→R6(県)
小学校 −3.1ポイント
中学校 −5.3ポイント

【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

課題解決力（探究力）

課題解決に向けて自分で考え行動する児童生徒の割合は全国的に上昇



全国比較（R6）

小学校 +4.1ポイント

中学校 +3.9ポイント

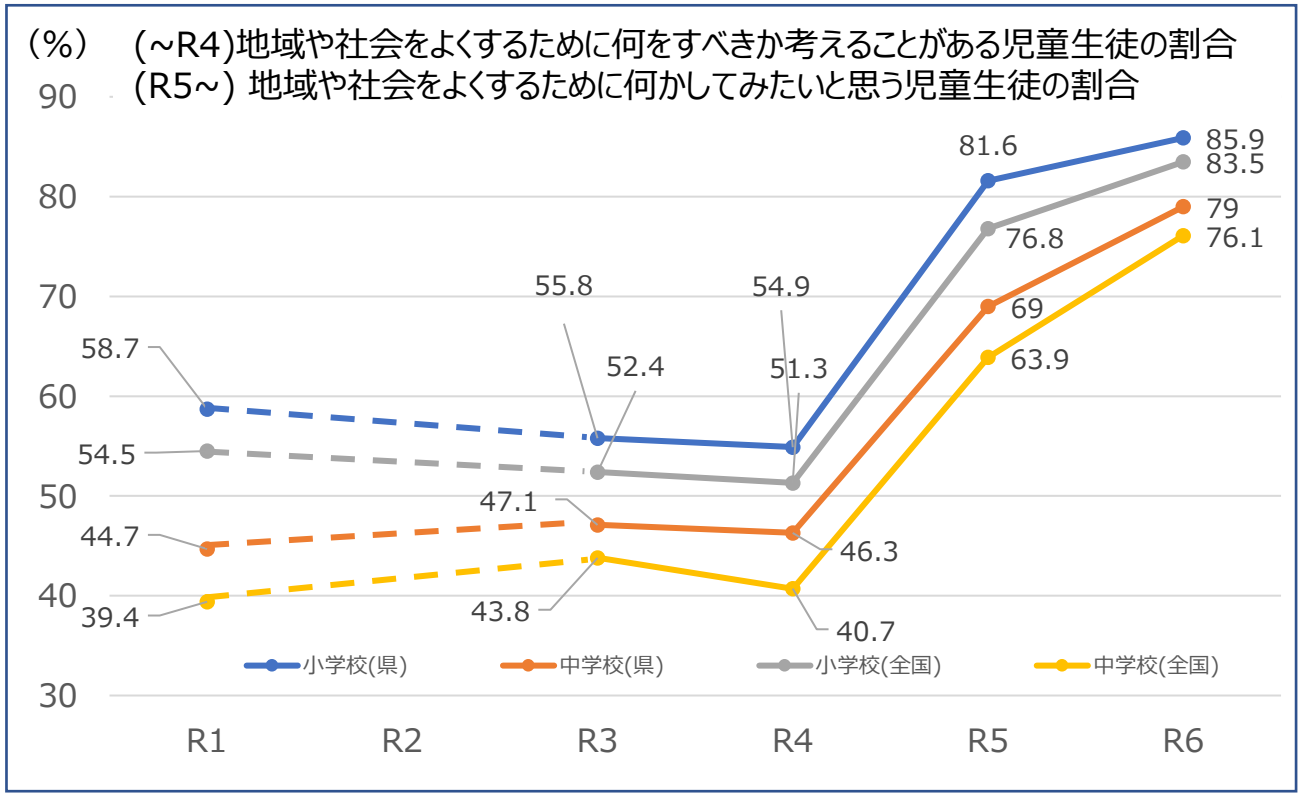
R1→R6（県）

小学校 +5.5ポイント

中学校 +6.0ポイント

【出典】「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）

地域や社会のために何かしてみたいと思う児童生徒の割合が上昇



全国比較(R6)

小学校 +2.4ポイント

中学校 +2.9ポイント

R5→R6(県)

小学校 +4.3ポイント

中学校 +10.0ポイント

【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

ICTの活用①

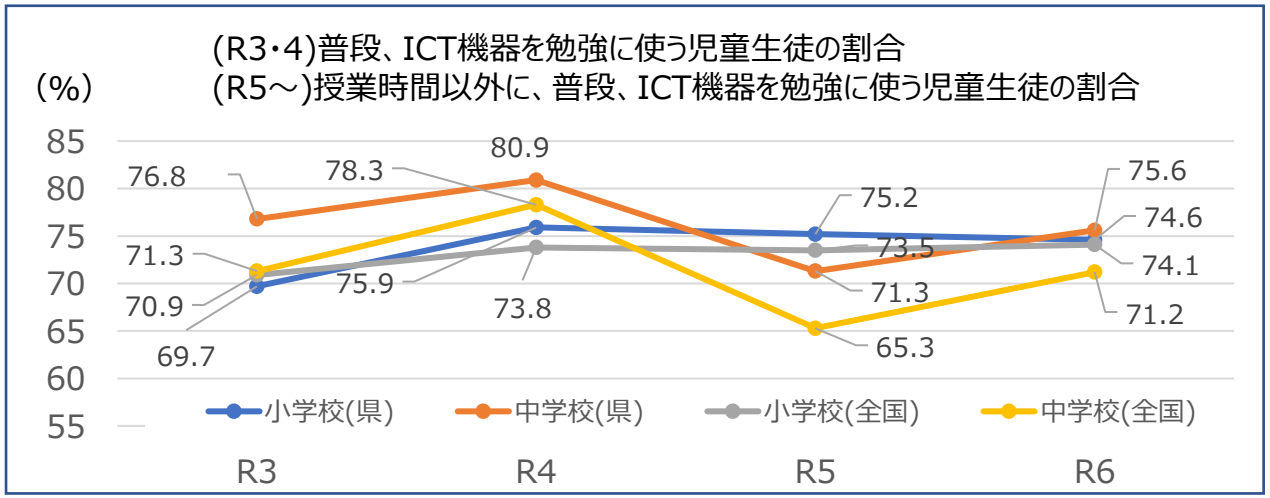
ICT活用に有用性を感じる児童生徒の割合は、全国よりも高い

質問項目	校種	福井県(%)	全国平均(%)	差(%pt)
(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	小学校	90.4	85.5	+4.9
	中学校	87.4	80.2	+7.2
(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	小学校	95.3	92.1	+3.2
	中学校	96.9	93.9	+3.0
(3)楽しみながら学習を進めることができる	小学校	90.2	86.0	+4.2
	中学校	88.0	82.4	+5.6
(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	小学校	92.5	89.8	+2.7
	中学校	92.2	89.0	+3.2
(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	小学校	86.9	79.2	+7.7
	中学校	87.8	77.7	+9.1
(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	小学校	90.8	86.1	+4.7
	中学校	92.4	86.2	+6.2
(7)友達と協力しながら学習を進めることができる	小学校	91.7	87.1	+4.6
	中学校	90.1	85.2	+4.9

【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

ICTの活用②

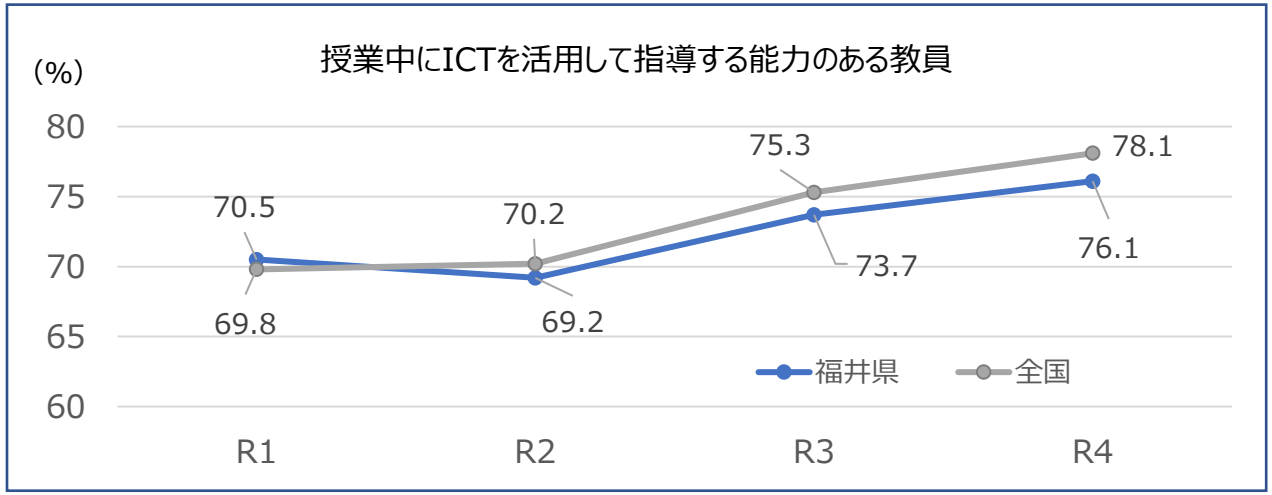
ICTを活用して勉強する児童生徒の割合は全国よりも高いが、
ICTを活用した指導能力のある教員の割合は増加しているが、全国よりも低い



【出典】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

全国比較(R6)
小学校 ほぼ同水準
中学校 +4.4ポイント

R5→R6(県)
小学校 ほぼ横ばい
中学校 +4.3ポイント



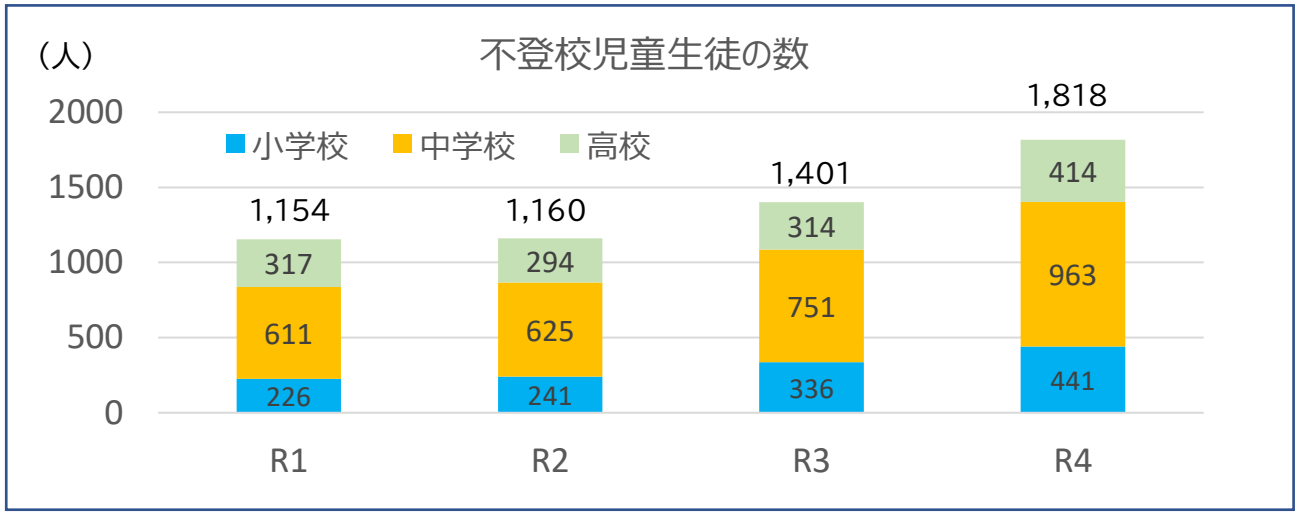
【出典】「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(文部科学省)

全国比較(R6)
−2.0ポイント

R1→R6(県)
+5.6ポイント

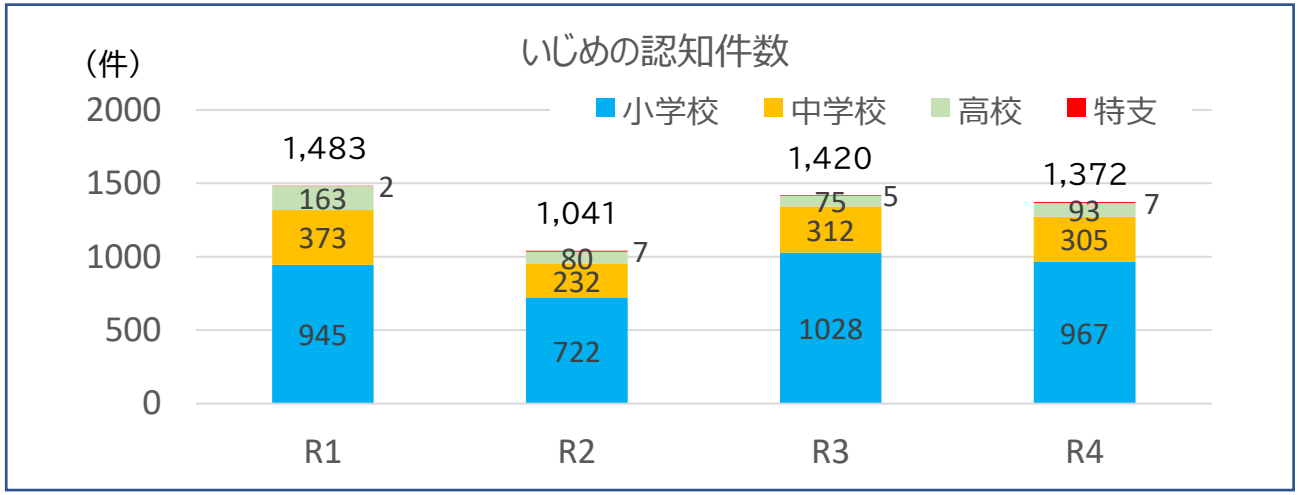
いじめ・不登校

不登校児童生徒数は増加（出現率は全国最低）



R1→R4
+664人

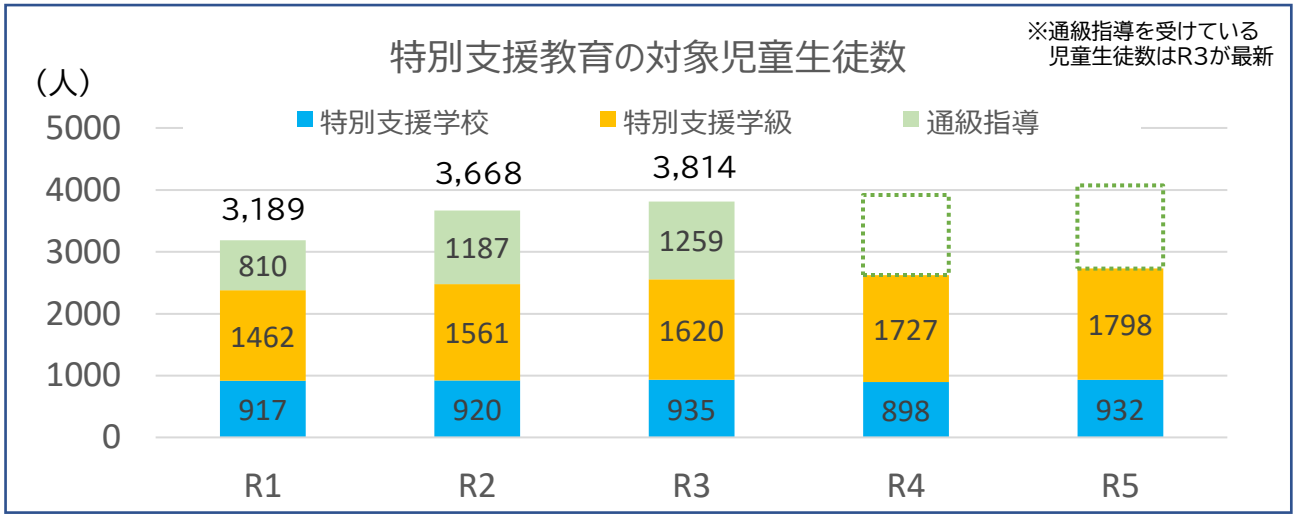
いじめ認知件数は減少傾向



R1→R4
−111件

【出典】「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）

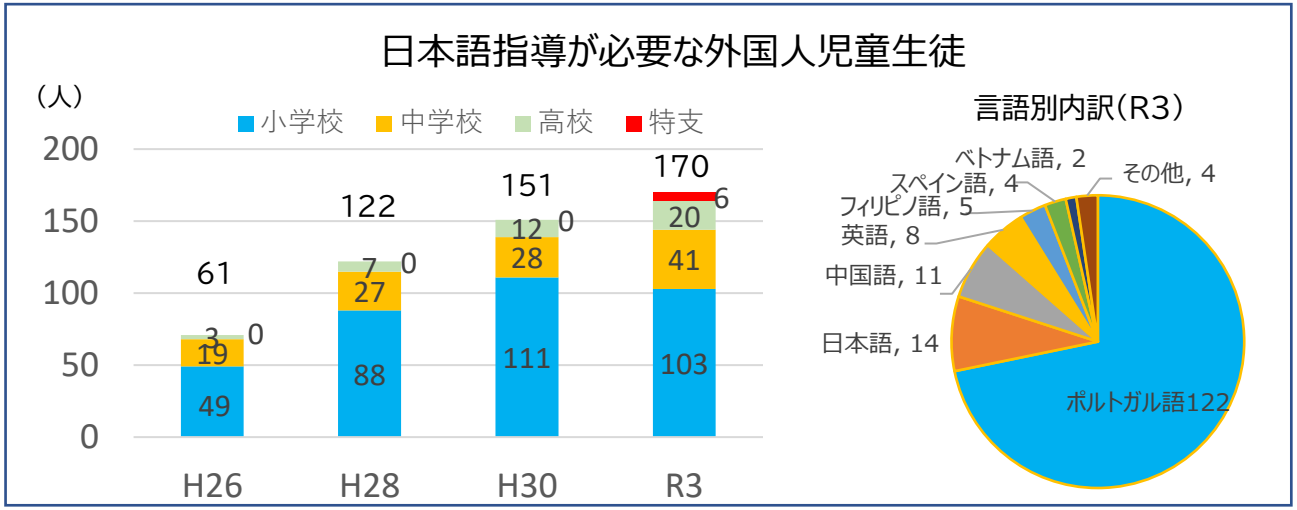
特別支援教育の対象児童生徒数が増加



R1→R3
+625人

【出典】「学校基本調査」（文部科学省）

外国人児童生徒数が増加

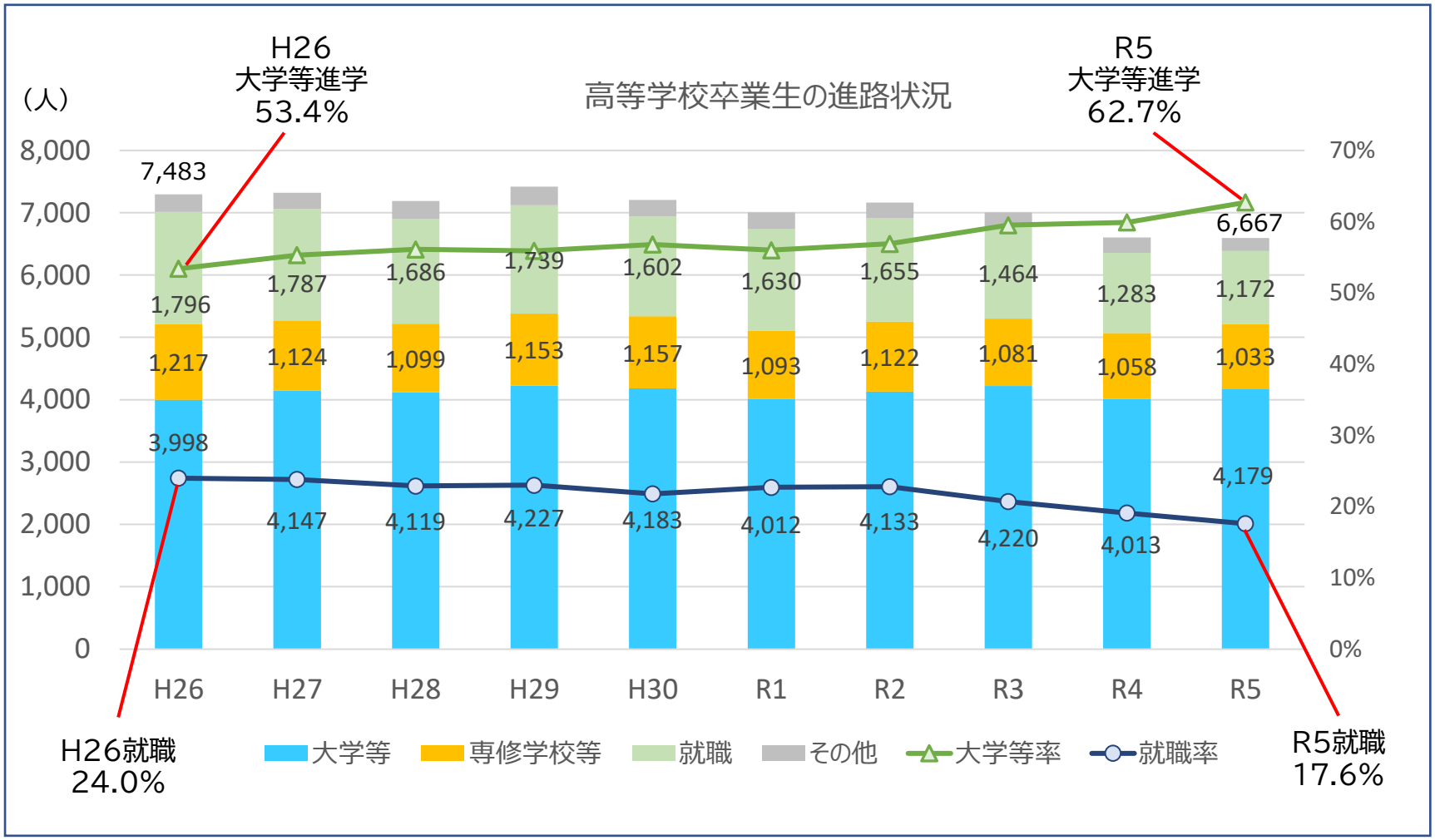


H26→R3
+109人

【出典】「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（文部科学省）

進路状況①（進学率と就職率）

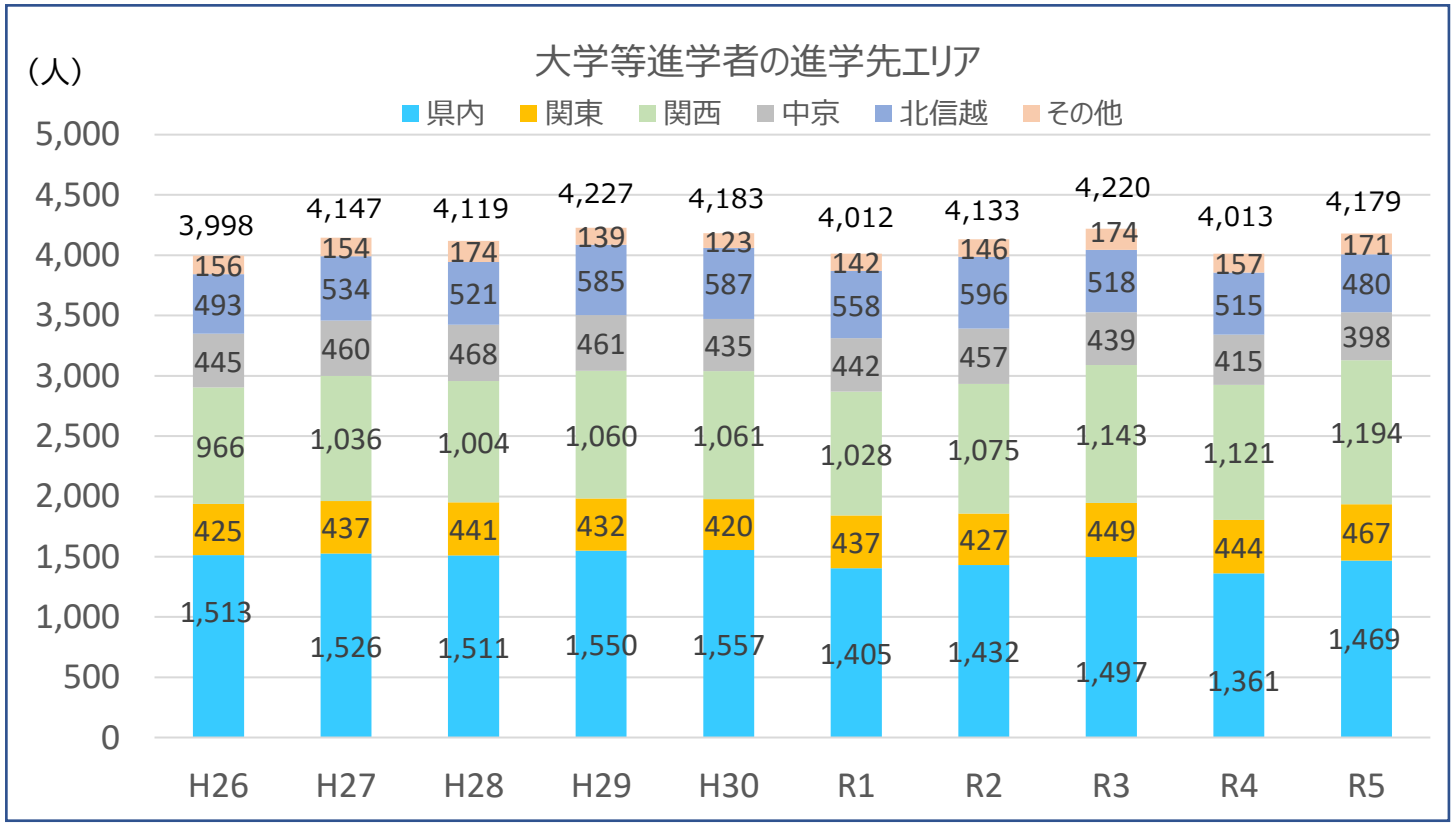
大学等への進学率が上昇、就職率が低下



※専修学校等進学率は15～16%、その他は4～6%程度を常に推移

【出典】「学校基本調査」（文部科学省）

大学等進学者の進学先は、県内が35.2%、県外は近畿圏が最も多く約28.6%

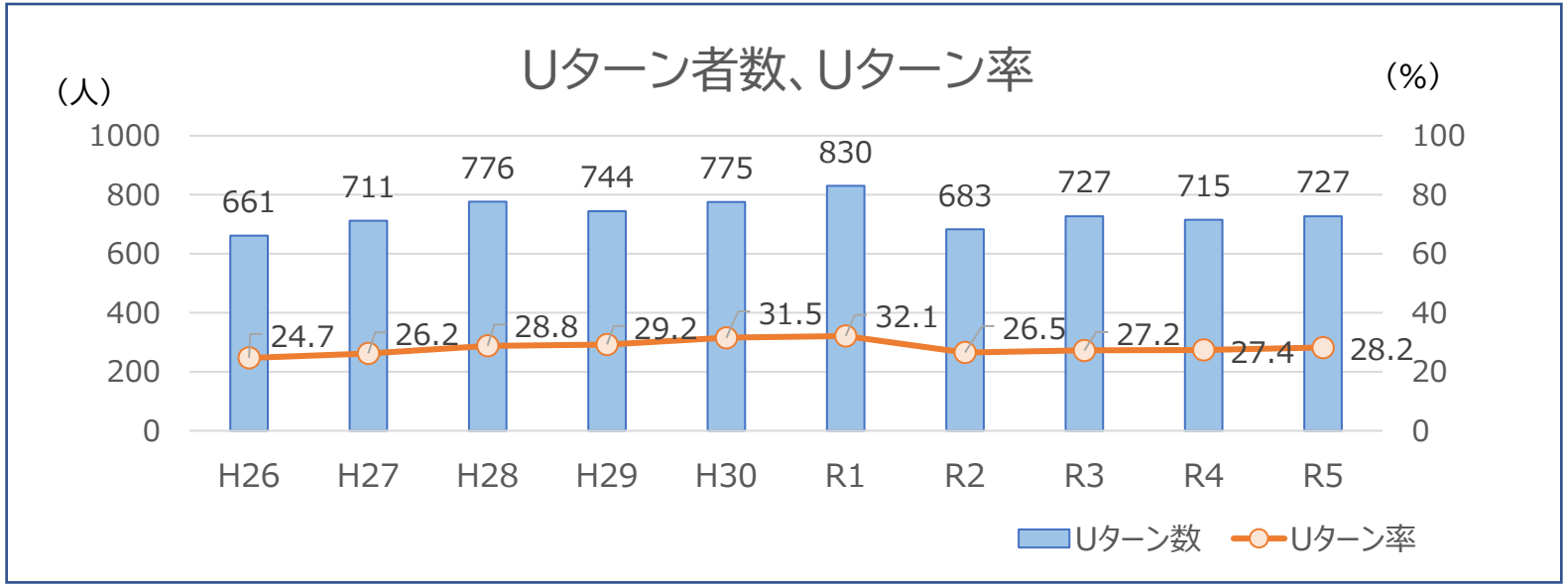


エリア（R5）	全体	県内	関東	関西	中京	北信越	その他
進学先割合	100%	35.2%	11.2%	28.6%	9.5%	11.5%	4.0%

【出典】「学校基本調査」（文部科学省）

大学進学者等のUターン

大学新卒者等のUターンは、概ね3割弱を推移



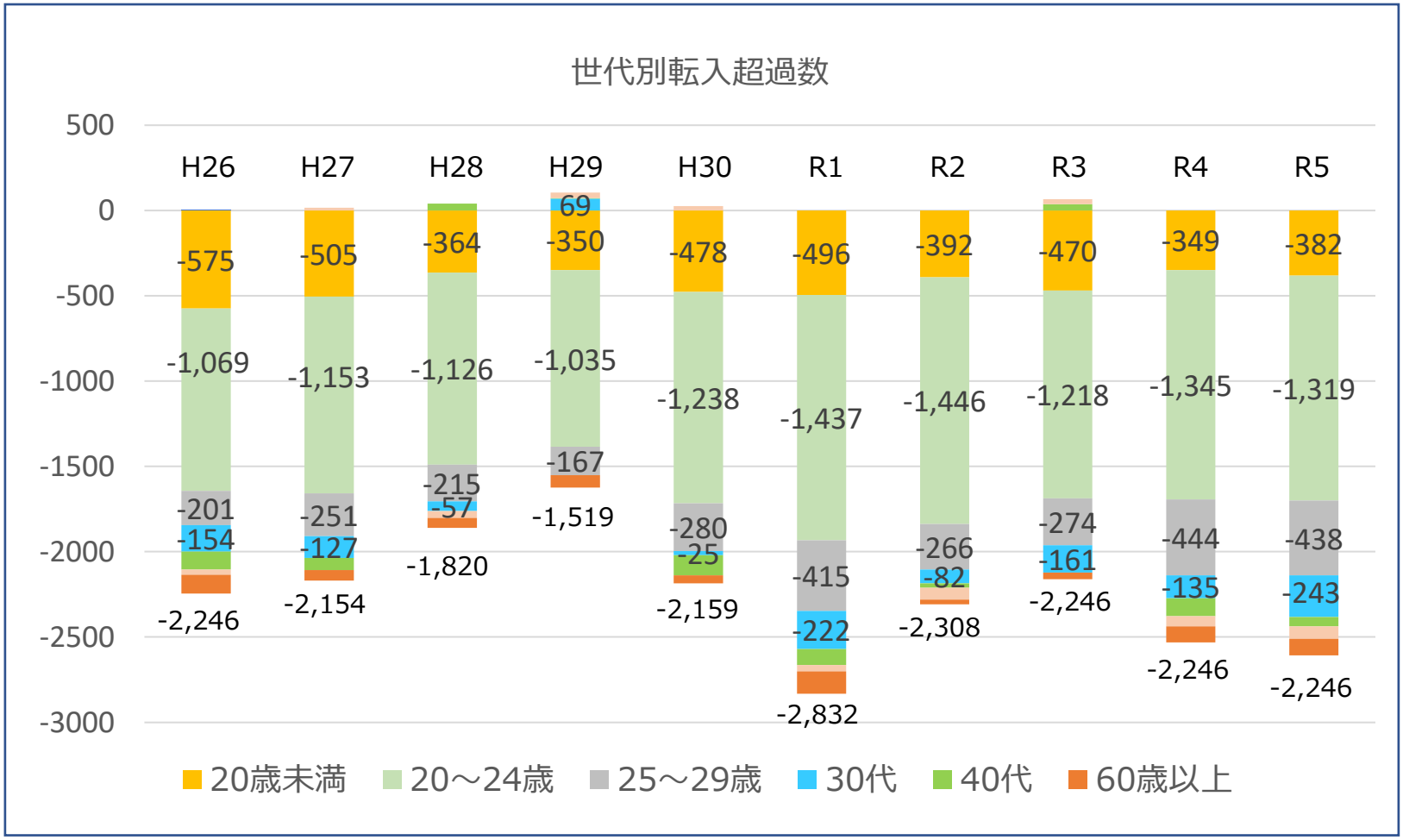
エリア別では、北信越・中京・関西は3割前後、関東では11.8%に留まる

エリア（R5）	全体	関東	関西	中京	北信越
Uターン率	28.2%	11.8%	29.1%	32.1%	36.7%
Uターン者数	727人	51人	294人	138人	195人

【出典】大学新卒者等の採用状況調査（県定住交流課）

社会増減

20歳代を中心に社会減



【出典】住民基本台帳人口移動報告（総務省）

子ども、学校関係者等の意見

子どもからの意見

■小学生

- タブレットを使う時間をふやしてほしい(5年生)
- 楽しい学校生活ができるといいです(5年生)
- いじめとかが起きない学校(4年生)
- 将来の進路を考えるきっかけを提供して欲しい(3年生)
- より積極的に校外学習で福井の文化を学び、未来に残していくべきだと思う(6年生)
- みんなが優しい人になれるようになってほしい(4年生)
- トイレを新ぴんにしてほしい(2年生)
- 体育館が暑すぎる　図書室も暑すぎる(1年生)
- グラウンドにもう少し遊具が欲しいです(1年生)

■中学生

- 定期・確認テストを減らしてほしい(1年生)
- タブレットをもっと使いやすくしてほしい(2年生)
- いじめがなくみんなが安心できる学校(1年生)
- 給食を美味しくしてほしい(2年生)
- 体育館にエアコンをつけてほしい(3年生)
- 地域と連携して大きなことをやりたい(3年生)
- 校則が厳しい。スマホ所持等緩くしてほしい(2年生)
- 自動販売機を設置してほしい(1年生)
- 宿題が多い(2年生)
- 行事を増やしてほしい(3年生)

■高校生

- もっと地域や地元と関わりたい(2年生)
- 勉強ばかりで何かを実践する機会が少ない(3年生)
- 一人一人の個性を認める雰囲気を作ってほしい(2年生)
- 職業体験をして、自分に合う職業を知りたい(3年生)
- 社会での常識を教えてほしい(1年生)
- 奨学金制度を充実してほしい(2年生)
- 他校との交流を増やしてほしい(1年生)
- 高校と大学の結びつきを強めてほしい(3年生)
- 大学や進路の学びの場を設けてほしい(1年生)
- 休日に校内テストを行うのは釈然としない(2年生)

【出典】こども・若者の意見募集(県こども未来課・教育政策課、R6.5～7)回答の中から抜粋

教員からの意見

■校長

・ICTを活用し子ども主体の学びに変化していくため、教員のICT活用能力向上と授業改善が不可欠（小学校）

・「探究力」は、「未来社会の創り手」になるために欠かせない。各教科における学びの質が大きく異なる（高校）

・部活動地域移行は、近年経験した事のない大改革。行政側のバックアップが必要。（中学校）

・小中学校で特別支援学級や通級指導の対象児童生徒が増加。専門家の手厚い配置、教員の特別支援教育への理解促進などが重要（特別支援学校）

・増加する不登校児童生徒の支援のため、校内サポートルームの拡充と担当職員の確保（小学校）

・地域と進める体験活動。人々と関わり、地域の良さの気づき、将来担い手となりたいと思うことが重要（小学校）

・小中学校教員の職業系高校への理解促進。地域貢献を高校入学後に考え始めるのでは遅い（高校）

・時間的な余裕を持つための働き方改革、ブラック職業イメージの払拭による人材確保（中学校）

【出典】次期「福井県教育振興基本計画」に向けたアンケート（県教育政策課、R5.8～9）

■若手・中堅教員

・新しいことを「できた！」と味わわせられると嬉しい。この喜びこそ教育の本質（小学校）

・子どもたちにもっと主体性や生きる力を付けさせたい（小学校）

・これからの時代に求められることは、学んだことをどう活かすか、どう社会に結び付けられるか（中学校）

・コロナの影響もあり、学校に来づらい子や、人間関係に臆病な子やそう思い込む子が増えた（高校）

・AIドリルの活用などの新しい教育を発信し、保護者・家庭への理解を得ることが必要（小学校）

・新たに学んだり教員間で情報共有する余裕がない。余裕ができればICT活用等も進む（中学校）

・空きコマがすくないため、外部とのやり取りや集金業務の時間を放課後にせざるを得ない（中学校）

・責任があるため担任が休暇を取れない。クラスを複数人で見るという風になればいい（高校）

【出典】ふくい教育ミライ会議（県教育庁、R6.7～）

市町教委、有識者からの意見

■市町教委

・学ぶ楽しさを知る教育が重要。地域と関わる体験や活動を進め、地域の教育力を子どもの成長につなげる

・高校生をロールモデルに、小中学生が自分の将来を重ねるなど、ふるさと教育の校種間連携ができると良い

・子どもの居場所をもっと増やしてあげないといけない

・公教育として、「誰一人取りこぼさない」という考えは外してはならない

・人口減少対策に資する教育を生み出していく視点も必要

・正規教員、産休・育休の代替教員の確保に取り組んでほしい

【出典】市町教育長との意見交換（R5.11.22）

■有識者 ※「ふくいの教育振興推進会議」委員

・人とのつながりや信頼など数値化できない部分がこれからの時代は大事（福井県立大学　岩崎学長）

・子どものウェルビーイングやキャリア教育の、教育の一貫性を持った推進が重要（学習院大学 秋田教授）

・教員自身が創意工夫する時間やエネルギーが必要。教育のプロフェッショナルに対するリスペクトと枠組みを強化し、福井県ならではの先生と学校を支える仕組みづくりが重要（福井大学　澁谷教育学部長）

・学んでいることが将来の生活や人生にどうつながるかイメージできていない子どもが多い。一生懸命な大人の姿を見せることが、子どものキャリアデザイン力の育成につながる（福井県PTA連合会 髙田副会長）

・やりたいことにチャレンジさせる環境が常にあり、社会や企業に関係して子どもたちを育てることが重要（福井経済同友会人づくり委員会 田中委員長）

・一つ重要なものを挙げるなら教育DX、デジタル化を基盤とした学校の転換（未来教育デザイン 平井代表社員）

・多様な他者との接点の創出と、コミュニケーションの増大の2つが重要。特に質疑応答力があると、社会に出てからのキャリア形成に大変力となる（（一社）プレゼンテーション協会 前田代表理事）

【出典】ふくいの教育振興推進会議（R6.6.3）

本県教育の今後の方向性

今後の方向性①

■子どもの学び、特に伸ばすべき力

・人口減少時では、一人一人が主役となり、**主体的に地域の未来を創る人材**を育成することが必要

・そのためには、人格形成に必要な非認知的な力を含めた、これからの時代に求められる**「生きる力」**を、幼児期から一貫して育んでいくことが重要。特に次の資質・能力の育成が必要

①いつの時代も重要な、思考と行動の基礎となる 学力、体力
②生涯学び続けるため、好奇心をもって学びを深める 探究力
③価値観が多様化する社会で、他者と協働するための 共感力、対話力
④よりよい人生と社会をつくるため、ふるさとの未来と自らの将来を思い描く キャリア形成力
⑤先が見通しにくい時代で、失敗を恐れずチャレンジして成長するための 挑戦力

・本県はこれまでも学びに向かう力の育成に力を入れており、「個性を引き出す教育」、学びを「楽しむ教育」を推進

・全国に先駆けて整備した一人一台タブレットをはじめとしたICT環境の活用等により学びを進化させ、興味関心や特性に応じて自らが求める学びを主体的に受けられる、**子どもが主役の教育を推進**

・学校を外に開いて、社会で活躍する大人とつながる機会を拡充。ふくいで働き暮らすことの価値を見いだす**「ライフデザイン教育」を推進**し、地域の未来と自らの将来を結び付けて考えられる力を育成

今後の方向性②

■学びの環境

・子どものたちの適性に応じた**多様なキャリア形成が応援**できるよう、県立高校における学びの特色化を推進

・全ての子どもが**安心して学ぶことができる居場所をつくる**

・学校、専門家や関係機関、家庭等が連携する**「チーム学校」**でいじめ・不登校対策等を推進

・子どもの学びやすい環境を整えるため、暑さ対策や省エネ、バリアフリー化等の施設改善を推進

■教職員のあり方

・80時間以上の超過勤務者は減少しているが、**教育現場の負担感は十分に和らいでいない**

・子どもたち一人一人に向き合う時間を増やすため、また、教職員自らも公私ともに充実できる環境をつくるため、**更なる学校業務の簡素化・改善**を図るとともに、**外部機関との連携、教職員およびサポート人材の確保**を推進

・教職員一人ひとりを大切にし、働きやすい環境を整えるとともに、優れた教員の頑張りを評価し、その創意工夫を発信することにより、**教員が誇りある魅力的な職業であることを広く周知**